F-1

線条的類像性—認知類型論的アプローチ—

鍋島 弘治朗, 堀江 薫, 水本 篤, プラシャント・パルデシ, ジェプカ ラファウ, 北野 浩章, 堀口 大樹, 古本 真, オ ヨンミン, エルチュルク ダムラ

言語にとって構造と順序は二大要素であり、ジュリアス・シーザーの言葉とされる(1)において時間的順序が言語の線条性に反映されるのは、類像性としてよく知られた現象である（Haiman, 1980）。

(1) Veni, vidi, vici（来た、見た、勝った）

慣用句、複合語、または接続詞を伴った統語的組み合わせにおいて、順序は好むと好まざるに関わらず発生する。この順序は完全に恣意的なものではない。例えば、(2a)と(3a)は、どちらも時間的順序に動機づけられている。

(2) a. morning and evening	b. North, South, East and West	c. mother and father
(3) a. 朝晩	b. 東西南北	c. 父母

一方、(2b)と(3b)の順序の相違は文化性によると考えられる。さらに、(2c)と(3c)では、一般的に男女の順序は男性優位であるが、英語では育児場面における女性の優位性を反映している。

このような対象は二項名詞（Binominals）や、世界における順序（World Order）という名称で研究されてきた(Abraham 1950, Malkiel 1959, Cooper and Ross 1975, Benor and Levy 2006, Mollin 2012, Lohmann 2014)。(2)や(3)のような慣用句や複合語などを**指標**と呼ぶことにする。このような指標の例を以下に上げる。

men and women	male and female	boys and girls	brothers and sisters
king and queen	husband and wife	mother and father	parent and child
young and old	plant and animal	before and after	morning and evening
today and tomorrow	beginning and end	past, present and future	old and new
cause and effect	here and there	this and that	near and far
here and now	you and I	come and go	buying and selling
in and out	entrance and exit	open and shut	front and back
left and right	up and down	hands and feet	black and white
sun and moon	good and bad	joys and sorrows	wealth and poverty
life and death	large and small	high and low	heavy and light

本発表では、75 の指標を 13 言語で類型論的に検討した成果を報告する。13 言語は以下の通りである。

日本語　中国語　韓国語　ラトビア語　英語　ドイツ語 フランス語　イタリア語　セルビア語
タイ語　インドネシア語　シンハラ語　トルコ語

まず、クラスター分析の結果を図 1 に示す。

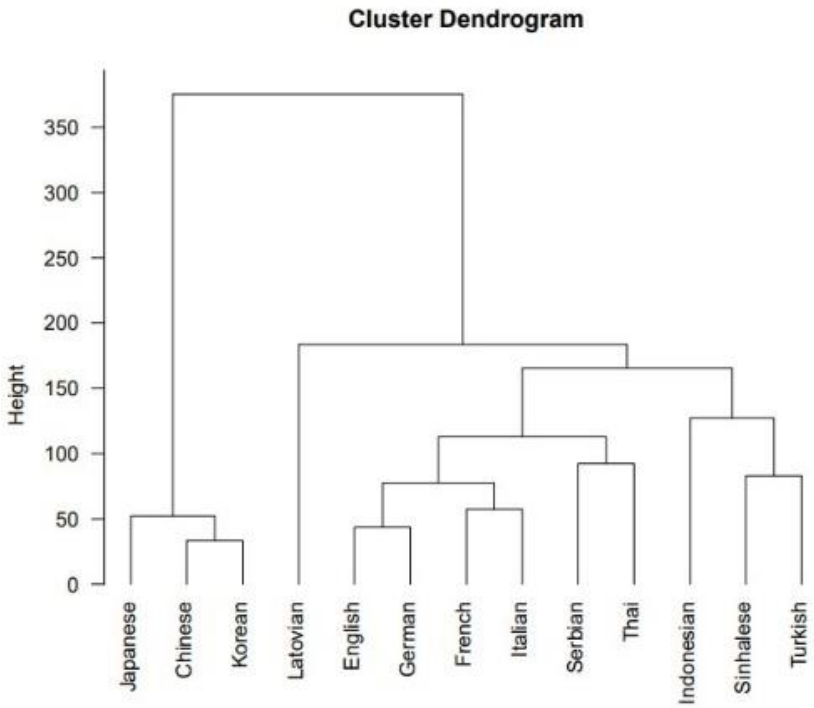

図 1 13 カ国語のクラスター分析図

この図から以下のようなことがわかる。

1) 日韓中の漢字文化圏の類似度が高く、借用や地域的な影響が想像できる。
2) 印欧語族が概して近く、言語系統的な影響が明らかであるが、他系統も混じっている。

これをコレスポンデンス分析で見ると図 2 のようになる。図 2 から読み取れることは以下のようである。

3) 日韓中は、クラスター分析と同様に類似度が高い。
4) 印欧語族は、中心にまとまり、タイ語、インドネシア語、シンハラ語、トルコ語といった非印欧語族言語が周辺に位置することから、こういった言語の類似度は印欧語族に比べて低

いと思われる。

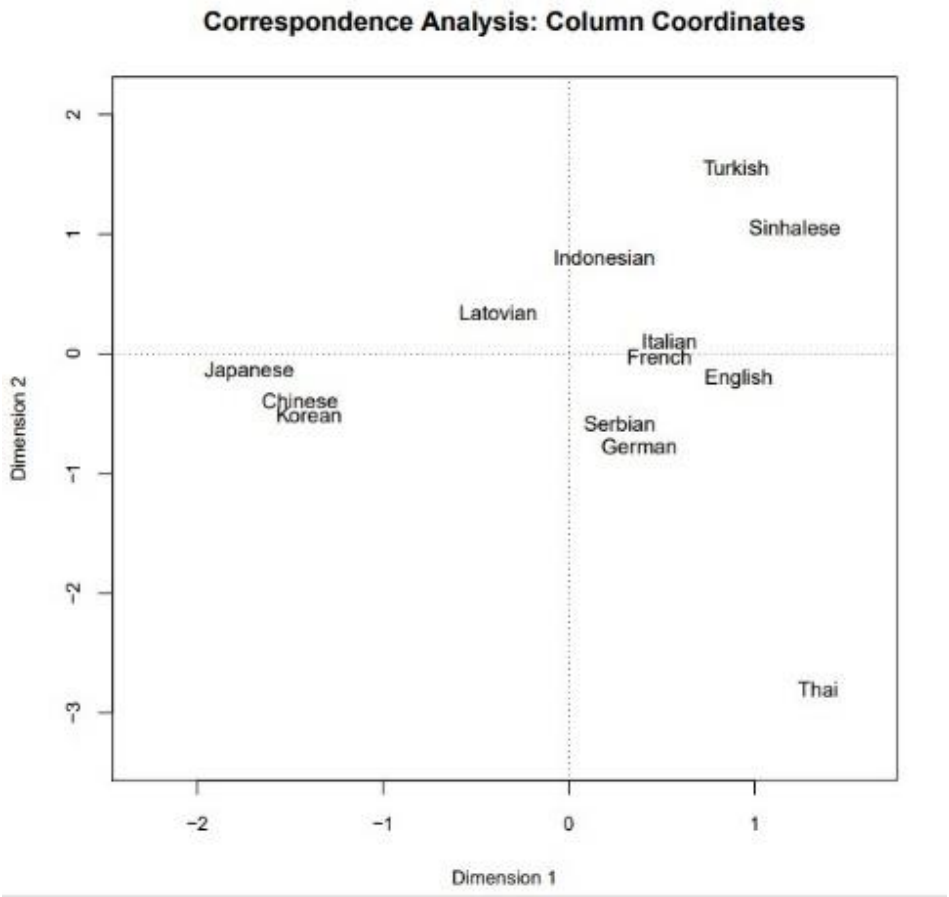

図 2 13 カ国語のコレスポンデンス分析図

図 3 は、指標をクラスター分析したものである。図 3 からは以下が読み取れる。

5) 左に左右の原則、行き来の原則などが集まっているが、これは言語文化的で、合致度が低いグループである。
6) 右の大きな四角の中心部には、時間的前後の原則（時間的に早いものが前にくる）、開閉の原則（開いている方が前にくる）、空間的前後の原則（前が先にくる）などが集まっているが、これは合致度の非常に高いグループである。
7) 右の大きな四角の右端に、上下の原則（上が前に来る）、善悪の原則（良いものが前に来る）、ダイクシスの原則（自分に近いものが前にくる）が来ているが、これらも合致度が比較的高いグループである。

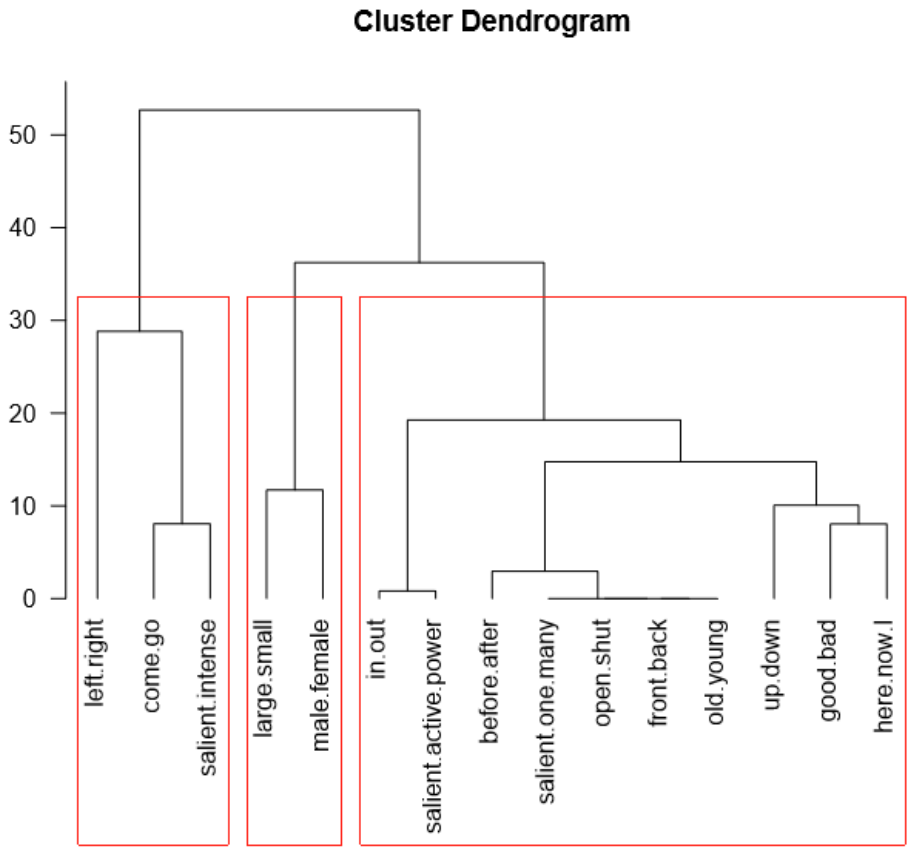

図 3 指標グループのクラスター分析

Abraham, Richard D. (1950). A study in comparative lexicography. *Modern Language Journal*, 34:276–87.

Benor, Sarah B. and Robert Levy. (2006). The chicken or the egg? A probabilistic analysis of English binomials. *Language,* 82:233–77.

Cooper, William E. and John R. Ross. (1975). World order. In Robin E. Grossman et al. (Eds.), *Papers from the Parasession on Functionalism*, 63–111. Chicago Linguistic Society.

Haiman, John. (1980). The iconicity of grammar: Isomorphism and motivation. *Language*, 56(3):515-40.

Lohmann, Arne. (2014). *English coordinate constructions: A processing perspective on constituent order*. Cambridge University Press.

Malkiel, Yakov. (1959). Studies in irreversible binominals. *Lingua*, 8:113–60.

Mollin, Sandra. (2012). Revisiting binomial order in English: Ordering constraints and reversibility. *English Language and Linguistics*, 16(1):81-103.